

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年1月31日現在

今月の重点活動

■ ブロッコリー 被覆試験の実施

12月から1月の厳寒期には、気温の低下によりブロッコリーの花蕾生育が停滞し、出荷が不安定となる。この厳寒期の安定的な出荷を目的として、ブロッコリー畝に保温性の高い被覆資材をべたがけし、生育促進効果を狙った調査試験を行った。12月5日から1月6日までべたがけ被覆を行った結果、慣行区と比べ、花蕾肥大だけではなく、葉面積の拡大及び葉中硝酸イオン濃度が高くなるなどの株全体の生育促進が認められた。今後、結果を取りまとめ、来年度以降の普及を図っていく。



【被覆試験の様子】

多様な担い手づくり

■ 管内就農研修生等 研修生間のネットワークづくり

12月20日に、管内の就農研修生および新規就農者が「就農研修生集合研修」（農業経営課主催）に参加し、県下に点在する研修生同士のネットワークづくりを行った。

管内からは、就農支援センター3期生4名（トマト）、大垣市あすなる農業塾生1名（ワサビ）の他、就農まもない農業者2名（トマト）が参加し、資質向上の講義、グループ別意見交換の他、会議終了後に開かれた交流会等で互いの情報交換を行った。



【研修会の様子】

■ 海津市ナス生産農業者 あすなる農業塾長に登録

海津市でナスを生産する伊藤宗人氏が、ナスの担い手を増やすための力になりたいとあすなる農業塾長登録を申請し、1月10日に登録された。伊藤氏は、県農業大学の派遣学習の受け入れ等担い手育成に意欲が高い。

管内のあすなる農業塾長は海津市1名（トマト）、大垣市1名（ワサビ）に加え3名となる。

活力ある新産地づくり

■ ブロッコリー 普及指導活動現地研修の対応

1月10日に(株)パソナ主催の普及指導現地研修として、大垣市で水田経営とブロッコリー栽培を行っている(株)西濃パイロットの視察対応を行った。木村代表から、会社の立ち上げ経緯やブロッコリー栽培の概要、今後の夢などが説明された。参加者からは法人化のメリット、米乾燥施設建設経緯など活発な質問が出された。農業普及課からは、JAにしみの管内のブロッコリー栽培取組み状況や新産地づくり地域活性化事業によるブロッコリー栽培支援取組みについて説明を行った。



【現地研修の様子】

売れるブランドづくり

■ 水稲 地域に適合した水稲品種の検討

海津市の奨励品種決定調査圃場で調査品種「ゆめまつり」（対象品種：あさひの夢）の収量・品質分析を実施した。収量については、「ゆめまつり」が「あさひの夢」を

30kg/10aほど上回り、タンパク・アミロース含量も「ゆめまつり」が低く、食味値も「ゆめまつり」の方が良好という結果が出た。本結果をもとに報告書をまとめる。

大垣市では、JAにしみの大垣営農センターが平成28年に試作した水稻新品種「縁結び」の結果と今後の方向について打合せ会議を開いた。農業普及課から平成28年の結果で整粒率が低いこと、収量が低いこと、ただし食味計の値が高いことについて説明した。協議の結果、平成29年産も試作することとなった。

飼料米については現行品種「モミロマン」は不稔が多いことが問題となっており、それと変わる品種として2品種を栽培実証調査し、1月20日に「飼料用米検討会議」を開催し、調査結果の報告を行った。結果としては、様々な課題があり、当該品種への切り替え等については時期尚早として、今後の採用は見送ることとした。

■ トマト 就農支援センター研修生、現地視察研修を開催

就農支援センター研修生が、就農にあたって生産者と直接話をして情報収集や意見交換が行える機会として、現地視察研修（年4回）を行っている。今回は、3回目、就農計画の作成時期であるため、資材の特性や選択等について積極的に研修生から質問があった。さらに、生産者間で技術面だけでなく、日頃から交流を積極的に行うことが、経営の様々な場面で手助けになることが多いとの話があった。有意義な現地研修会となった。今回の研修での情報が反映され、より就農の実態に合った就農計画が作成されることが期待される。



【説明を受ける研修生】

■ ナバナ部会 役員会開催

海津ナバナ部会役員会が1月20日に開催され、県育成品種「春なつみ」、在来種の種子更新に関する打ち合わせと種子更新の今後のあり方について検討が行われた。農業普及課からは採種における栽培の要点と栽培管理について情報提供した。また、この機会を捉え、栽培面積・生産量維持確保のための圃場づくり、播種作業の協業・協同化、労働補完について問題提起した。

■ 寒玉キャベツ（牧園芸組合） 目揃会開催

1月19日に寒玉キャベツの目揃会が行われた。これは、「グリーンファーム・まき」の栽培取り組みとともに平成26年度産から行われているもの。定植が早かったものに関しては初期の生育が確保され、年内に先行して出荷が進められている。本年度も雪が少なく、秋季の長雨後は天候が比較的安定したため、アブラムシ類、アオムシが観察される。農業普及課は春キャベツも含めた病害虫防除について指導を行った。



■ かき 今年の出荷実績まとまる

平成28年産のかきは肥大期から着色期にかけて気温が高かったため着色が遅れ、収穫期になっても十分な着色を得られなかったほ場が散見された。また、収穫が遅れたことから凍障害も発生した。このため、南濃選果場での取扱量は、出荷量197t（前年比84%）、kg単価220円（同114%）、販売額4,328万円（同95%）に留まった。この結果は南濃果樹部会（1月13日）、養老果樹振興会（1月19日）の各組織の出荷反省会で報告された。